

令和8年度第1回大船渡市地域公共交通会議 議事録

■ 開催日時及び場所

○日時 令和8年6月24日（水） 午後2時00分～午後3時30分

○場所 大船渡市役所 地階大会議室

■ 委員数

30名

■ 出席者

○委員 25名

- ・小 岩 洋 一（岩手県交通株式会社）
- ・佐 藤 保（岩手県タクシー協会気仙支部）
- ・千 田 淳（岩手県交通運輸産業労働組合協議会）
- ・金 野 富（大船渡市PTA連合会）※途中退席
- ・高 武 暎（岩手県高等学校PTA連合会気仙地区連絡協議会）
- ・紀 室 綾 子（大船渡商工会議所）
- ・今 野 敦 子（大船渡市老人クラブ連合会）
- ・大和田 洋太郎（大船渡市地区公民館連絡協議会）
- ・渋谷 貴 佳（東北運輸局岩手運輸支局）
- ・加 藤 広 太（東北運輸局岩手運輸支局）
- ・佐 藤 秀 一（南三陸沿岸国道事務所大船渡維持出張所）
- ・佐々木 修（大船渡地域振興センター地域振興課）
- ・山 本 純 一（大船渡土木センター道路整備課）
- ・藤 原 裕 一（大船渡警察署）
- ・宇佐美 誠 史（岩手県立大学総合政策学部）
- ・阿 部 良 充（東日本旅客鉄道株式会社気仙沼統括センター）
- ・山 蔭 康 明（三陸鉄道株式会社大船渡派出所）
- ・佐 藤 秀 之（大船渡観光バス事業協同組合）
- ・中 村 純 代（大船渡地域戦略）
- ・山 岸 健悦郎（大船渡市企画政策部）代理：大和田 達也
- ・佐々木 義 和（大船渡市協働まちづくり部）
- ・佐 藤 二 美（大船渡市市民生活部）代理：橋本 邦彦
- ・藤 原 秀 樹（大船渡市保健福祉部）
- ・長 岩 智 徳（大船渡市都市整備部）
- ・花 崎 誠（大船渡市教育委員会）代理：新沼 一彦

○事務局（大船渡市商工港湾部港湾振興課） 5名

商工港湾部長：安居 清隆、港湾振興課長：平野 辰雄、課長補佐：鈴木 雅博、
交通通信係長：村上 暢啓、主事補：山崎 豪

■ 会議経過（協議内容等）

1 開会

司会より委員 30 名中、25 名（1 名は遅れて参加）が出席し、会議設置要綱第 6 第 2 項の規定により、会議が成立している旨を報告。その後、委員を紹介。

2 会長選出

会議設置要綱第 5 の規定により、会長は委員からの互選となっており、委員より事務局案の提示を求められたため、事務局から宇佐美 誠史委員を推薦した。委員からの異議がなかったことから、宇佐美 誠史委員が会長となる。

3 会長挨拶

【会長】

本日はご多忙の中、令和 8 年度第 1 回公共交通会議にご出席いただき、ありがとうございます。また、新たな任期となりますので、2 年間よろしくお願いいたします。

公共交通を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にありますが、本日の会議では昨年度の取組実績や事業効果の検証、今年度の取組などについて説明があります。それぞれのお立場から率直なご意見をいただき、より良い公共交通の実現につなげていきたいと考えています。

また、議論が一部の発言者だけに偏ることなく、委員の皆様からも積極的にご意見をいただければ幸いです。

4 副会長及び監事の指名（会長が議長となり進行）

会長より、大和田 洋太郎委員を副会長に指名し、今野 敦子委員及び山蔭 康明委員を監事に指名した。

5 報告

- (1) 大船渡市地域公共交通計画（計画期間：R4～R7）に係る令和 7 年度の取組実績及び事業効果の検証について

事務局より報告。（資料 1）

【委員】

私から 2 点確認する。

1 点目は、資料 1 ページの評価指標の達成度にある市内路線のバス利用者数について、令和 6 年度の約 83 千人から令和 7 年度は約 67 千人に減少し、達成区分が C となっているが、減少した要因を把握していれば教えてほしい。

2 点目は、資料 11 ページのタクシーチケット配布事業について、令和 7 年度の使用率が 62.5%となり、前年度より上昇しているが、その要因を把握していれば教えてほしい。

【委員】

路線バス利用者が減少した要因としては、丸森立根線と碁石線を統合したことにより、利用の少ない廃止区間にも一定の利用者がいたため、その影響で利用者数が減少したのではないかと考える。

また、生徒数の減少などの影響もあり、全体として利用者数が減少している。

【事務局】

路線バスについては、BRT 利用者が年々増加傾向にある中で、大船渡地区で運行区間が重複する部分もあるため、一部で利用者が BRT に流入している可能性があると分析している。

タクシーチケット配布事業については、令和 7 年度から末崎地区が配布対象区域から外れたことにより全体の発行枚数が減少した。また、タクシーチケットは、他の移動手段がない場合に利用される傾向にあり、末崎地区は BRT の運行区域でもあることから、使用率が比較的低い状況でもあったため、対象区域の見直しにより全体の使用率が上昇したものと考えている。

- (2) 大船渡市地域公共交通計画に係る令和 8 年度の主要な取組等について
事務局より報告。(資料 2)

【委員】

国庫補助金を活用した調査事業について、今年度は公共ライドシェアの導入を視野に調査を実施するとの説明だったが、実証運行は実施せず、調査のみという理解でよい。

【事務局】

公共ライドシェアを視野に入れているが、現時点で導入を前提としているわけではなく、今年度は地域内交通の制度設計に向けた調査を実施する予定であり、実証運行までは想定していない。

一方で、この国庫補助事業では、次年度までに導入または実証運行が求められているため、今年度の調査結果を踏まえ、来年度の実証運行の時期も見据えながら計画的に進めていきたいと考えている。

【委員】

都市部の路線バスへの影響も考えられるため、調査結果やアンケートの内容を踏まえ、引き続き関係者で調整し、計画的に進めていただければと思う。

6 協議

- (1) 令和 7 年度大船渡市地域公共交通会議収入支出決算について
事務局より説明。(資料 3)
監査報告として監事が適正に処理されていることを報告。
質疑等なし。

(2) 地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助金）の実施について
事務局より説明。（資料４）

【委員】

大船渡市から岩手医科大学へ通院する方から、バスがなく不便との声を聞いている。矢巾町の岩手医科大学を経由して盛岡へ向かうルートを検討していただきたいと思う。

【委員】

以前、岩手医科大学の移転に合わせ、大船渡盛岡線を大学まで延伸したことはあるが、利用者が少なかったため運行を終了した経緯がある。

大船渡盛岡線は、盛岡市内までの利用者が多く、大学を経由すると所要時間が 20～30 分程度長くなることから、現在の運行形態となっている。いただいたご意見はご要望として承り、社内で検討する。

【事務局】

盛岡駅から岩手医科大学への路線は運行されているか。

【委員】

盛岡駅から岩手医科大学へは、2 路線運行しており、病院前まで乗り入れている。ただし、本数は 1 時間に 2 本程度である。

また、ＪＲの東北本線で矢幅駅まで移動し、矢巾町のコミュニティバスや当社路線バスに乗り継ぐ方法もあり、一定の交通手段は確保している。

【会長】

乗り換えとなる点は課題だが、各地域で直通路線を増やすと重複区間が多くなり、運行効率の低下や運転士の拘束時間の増加につながるため、交通結節点で乗り継ぐ運行体系が各地で進められているものの、利用者にとって乗り換えの負担があることも事実である。

ご意見は今後も参考にさせていただく。

【委員】

交通空白地域の解消に向けた取組が進む一方で、市内路線バスの利用者減少や運転士不足など厳しい状況が続いている。国庫補助対象となる路線は、広域幹線交通との接続も担う重要な路線であるため、利用状況を把握しながら、引き続き運行の確保に取り組んでいただきたいと思う。

【事務局】

市内路線バスは、重要な移動手段と認識しており、利用状況を把握しながら、地域に適した移動手段のあり方を検討していく。

今年度は、国庫補助事業を活用し、綾里地区において調査事業を実施する。同地区には、路線バスや三陸鉄道が運行していることから、それらとの接続を含めた地域内交通のあり方を検討する予定である。

今後もこうした取組を進めながら、市民の移動手段の確保に努めていきたい。

- (3) 末崎地区デマンド交通実証実験の継続実施について
事務局から説明。(資料5)

【委員】

末崎地区デマンド交通の運行を担当する立場から、デマンド交通の運行区域については、タクシー事業の営業区域との関係もあるため、今後は陸前高田市など関係自治体とも協議しながら検討を進めていただきたい。

現在、末崎地区から陸前高田市方面へ移動する需要も一定数あり、実際にタクシーを利用される方もいる。そのため、デマンド交通の運行エリアを陸前高田市まで拡大できれば、利用者の増加につながる可能性があると考えている。

また、早朝から運行体制を整えているものの、時間帯によっては利用が少ない運行状況にある。地域の実情を踏まえ、運行エリアの拡大も含めて検討してほしいと思う。

【事務局】

末崎地区のデマンド交通は、大船渡病院やマイヤ大船渡店などを目的地として設定しており、ご提案の陸前高田市への運行エリア拡大については、BRT が陸前高田市方面に運行していることから、一部区間でサービスが重複することもあると考えられる。

一方で、ご要望は地域ニーズの一つとして受け止め、BRT との役割分担や利用状況も踏まえながら、検討していきたいと考えている。

【委員】

末崎地区デマンド交通について、参考資料では、令和6年度と令和7年度を比較すると利用実績が伸びており、地域にも浸透してきたものと考えられるが、利用者から寄せられている要望や意見があれば教えてほしい。

また、運行内容は昨年度と同じという理解でよろしいか。今年度は実証運行3年目となることから、本格運行に向けて、利用者の要望を踏まえたダイヤや運行エリアの見直しについても検討してほしいと思う。

【事務局】

利用者からの意見については、当日配布した参考資料のアンケート結果に掲載しており、改善してほしい点としては、運行エリアの拡大を求める意見が寄せられている。また、自由記述では、以前実施していたタクシーチケット配布事業の再開を希望する意見や運行時間に関する要望などがあった。

運行内容については、昨年度と同様である。

【委員】

末崎地区は、高齢者の利用割合が高い地域でもあるようなので、その点も踏まえながら見直しを検討してほしいと思う。

【会長】

今年度は3年間の実証運行期間の最終年度となるので、本格運行へ移行するのか、運行内容を見直すのかなど、今後の方向性について検討していく重要な時期である。

委員の皆様には、お気づきの点や日頃感じていることがあれば、随時事務局へご意見

を寄せてほしい。

- (4) 令和8年度大船渡市地域公共交通会議収入支出予算（案）について
事務局より説明。（資料6）
質疑等なし。

（会長はここで議長の任を終了）

7 その他

【委員】

1点目は、東京都と釜石市を結ぶ「気仙ライナー」について、通常は金曜日と土曜日のみの運行だが、お盆期間の8月7日から8月15日まで毎日運行となる。予約は乗車日の1ヶ月前から可能なので、帰省や旅行の際にぜひ利用してほしい。

2点目は、当社は今年で創立50周年を迎え、これを記念して「岩手県交通50年史」を発刊した。大船渡市内の書店では販売していないが、インターネットで購入できるのでよろしければご覧いただきたい。

【会長】

8月29日に大船渡市で、岩手県のサイクリングルートをテーマとしたシンポジウムを開催する予定である。

岩手県ではサイクリングルートの整備・活用を進めており、今後の地域づくりや観光振興について意見交換を行っている。当日は、国の「ナショナルサイクルルート」の審査員による基調講演のほか、サイクリングイベントや親子向けの体験企画なども予定しており、詳細については、今後チラシ等で案内があると思うので、ぜひご参加いただければと思う。

【事務局】

大船渡市地域公共交通会議は、例年、年2回程度開催しており、今年度の次回会議については、令和9年1月頃の開催を予定している。日程が近づいたら改めてご案内する。

8 閉会

午後3時30分閉会。